

# 「花鳥風月一屏風絵の世界」

主催：静岡県立美術館  
 会期：平成17年12月23日(金・祝日)～  
 平成18年2月12日(日)<40日間>  
 休館日：12/26(月)～1/1(日)、1/10(火)、  
 1/16・23・30と2/6の各月曜日  
 会場：第1～第5展示室

当館収蔵の館藏品・寄託品のなかから、とくに「花鳥風月」をテーマにした「屏風」を特集してご覧いただいた。

「花鳥風月」とは、「自然の美しい風景」あるいは「自然を相手に詩・絵画などをつくる風雅な遊び。風流」(大辞林)のこと。「屏風」は、座敷を間仕切りしたり、風をさえぎったりするために用いられる調度品である。何枚かのパネルを蝶番でつないで折りたためるようにした屏風の形式は、飛鳥時代に中国から伝わったものだが、もとはパネルごとに絵が描かれていた。それを全体として絵がつながるようにしたのは室町時代の日本の工夫である。以降、江戸時代から近代まで、屏風によって大画面の魅力を楽しめるようになった。

展示構成は、つぎのとおりで、「和」にこだわり、セクションやコーナーではなく、「間」という表記を用いた。

1. 吉祥の間、2. 富士の間、3. 花鳥の間、
4. 物語風景の間

当館に収蔵の多い富士山の絵の数々も展示に含めた。国指定の重要文化財として雲谷等顔筆《春夏山水図

屏風》(個人蔵)と狩野元信筆《富士参詣曼荼羅図》(富士山本宮浅間大社蔵)の2作品は特別公開。その他、狩野山雪《四季花鳥図屏風》、伊藤若冲《花鳥蔬菜図押絵貼屏風》、長沢蘆雪《赤壁図屏風》など、42点を展観。大画面に繰り広げられる花鳥風月の世界、富士山の絵など、新春をことほぐタイムリーな企画として受けとめられ、「和」の魅力を心ゆくまで楽しんでいただいで好評を博した。

## ■カタログ

出品作のほとんどが、収蔵品図録『狩野派の世界』(1999年)、『富士山の絵画』(2004年)、『若冲と京の画家たち』(2005年)に収録されているため、この展覧会のためのカタログは作成しなかった、これら収蔵品図録をミュージアムショップで販売し、展示会場に見本を置いた。

## ■関連事業

- 1/14土、1/22日、2/11土  
 学芸員による作品解説 いずれも13時～ 展示室にて
- 1/29日  
 特別企画「日本画をじかに見る」13:30～ 講座室  
 20名参加

## ■出品目録

p.88参照



▲ チラシ表紙